き、何れも巨木で実に見事なもので、関東では上野、小金井、飛鳥山とか埼玉県の熊谷等と並び称されたものですが筑波山を背景に清い流れの桜川を配したこの堤の桜は他に比すべくもなく、ほんとうに一幅の名画そのものでした。

そして堤には緋毛せんの茶屋ができて団子やらおでん屋が軒を並べ赤い前垂姿の姐さん方のお酌にさんざめく夜桜見物の酔客も多く賑やかな光景も見られたものです。

夏の桜川も忘れ得ない風物詩の一つです。夕景ともなりますと白がすりの浴衣で笹を束ねた竿をもち籠を片手に螢がり、涼しい夜風に吹かれ乍ら無数の螢を追い折から川風にさそわれて屋形舟の粋人が紅裙連をはべらしての風流は、今では想像もつかぬ情景ではないでしょうか。

桜川から霞ケ浦の浅瀬でのしじみを採り乍らの水泳も忘れ難い楽しい遊びでした。それから七月の八坂神社の祇園祭があります。現在はどうか知りませんが、当時は各町持ち廻りの当番町が思い思いの数寄をこらして、お揃い着の元気のよい若衆連がお神輿を先頭に山車を引いて練り歩き、短い盛夏の夜を彩ったものです。

楽しい夏休みが終わると爽やかな空気のきれいな秋が待っています。楽しい実拾い初たけ狩りは日課の一つで真鍋先の赤池から中貫神社あたり或は阿見原（霞ケ浦航空隊になる前）が舞台で、夜ともなるとあのなつかしい亀城公園で又田中の八幡様から虫掛在宅あたりまで松虫鈴虫、くつわ虫をとりに出かけ結構獲物もあった記憶もあります。

その他桜川堤の煙火大会とか数々の行事や遊びがありましたが、この何れもが奇麗に澄んだ空、緑の草樹、青々とした美しい川等、尊い自然の環境に恵まれ、背景があってこそ、これ等の健康的な華やかな舞台が展開されたことであると思います。

幸いにして土浦は戦災から免れ形だけは残りました。自然も守られた訳です。是は全く僥倖でした。従って戦後土浦は、他の戦災都市に比しいち早く立直り、社会的には地位も向上し、経済的にも大いに飛躍し、著しい発展を遂げましたが、それとはうらはらに、折角戦災を免れた街の自然が破壊され、失いつつあることを知り、それは経済成長と、文化衛生対策のアンバランスの結果で